

美人投票と情報カスケード

sp07124 熊谷 直紀 (非線形物理学研究室)

1 はじめに

株式投資とは単に価値のある企業に投資すれば儲かるというものではない。それは株価を決めるのが配当や利子率などの期待リターンだけで決まるものではなく、投資家たちの不安や期待など社会関係を含めた多様な予測の累積から決まるからである。このケインズの考えが果たして正しいのか？実際の市場のように情報カスケードが起きるとどうなるか？こうした疑問について美人投票の実験を行い検証した。

2 美人投票と情報カスケード

美人投票と情報カスケードについて説明を補足する。ケインズの美人投票論とは、デイトレードのような短期的な投資について述べている。彼は「雇用と利子および貨幣の一般理論」という著書で「株式投資は、投票者が100枚の写真の中から最も美しいと思う6人の女性を選び、その選択が投票者全体の平均的な好みに最も近かった者に賞品が与えられるという美人投票に見たてることができよう」と述べている。また、同著で「この場合、各投票者は自分が最も美しいと思う美女を選ぶのではなく、他の投票者の好みに最も合うと思う美女を選択しなければならず、しかも投票者の全てが問題を同じ観点からみている」とも述べている。株式投資をするにあたり、まず考えることは企業の経営状態であったり政策であったりするだろう。ケインズもかつてそのように考えていた。しかし真に予想すべきは株を買う投資家たちの動きであるとケインズは考え、株価が上がる株とは多くの投資家たちの支持を得ることのできた株だという考えに変わった。

次に、情報カスケードとは群衆行動の理論の一つである。人には他の人につられて動いてしまう習性がある。選択に迫られた時、自分である程度情報を持っていたとしてもそれを信じることをせず他人の行動を見て正しいと思い込み、つられて同じ行動を取ってしまうことがある。こうした他人の行動選択の影響によって集団の行動がある選択肢に集中することを情報カスケードと呼ぶ。

3 実験方法

今回の実験では61人の被験者に、AKB48総選挙のトップ5の女性から2名ずつ選んだ美人投票を計10回の総当たり戦形式で行った。まず被験者には自分の好みの女性に投票してもらい、次に一般的に美人だと思う方に投票してもらい、最後に過去の投票結果を開示し一般的に美人だと思う方に再度投票してもらい、この3パターンの中でどのように票が動くのか？に注目し実験を行った。なお対戦する2人のうちどちらが一般的な美人なのかの判定には、2回目に行った他の人が予想する一般的な美人を基準にした。またケインズの考えに沿って一般的な美人と認められた女性に投票した人にインセンティブを支払った。

4 結果と考察

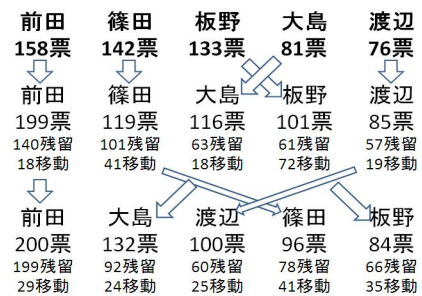


図 1: 美人投票での票の流れ

投票実験の結果から自分の好みとみんな予想とは大きくずれていることが見て取れる。特に篠田・板野から流れていく票は多く、順位を変える結果になった。AKB総選挙で約500票差だったトップ2人が票を伸ばしたのはこの二人が一般的に美人と認識されているからであり、ケインズの考えに沿った結果を得た。さらに過去の投票結果を被験者に伝える実験ではその傾向はさらに顕著に現れ自分の好みでは4位にとどまっていた大島は2位にまで浮上した。もう一つ面白いことは最下位だった渡辺が表を伸ばし3位にまで浮上したことだ。彼女には自分の好みの投票のときから票を移さないいわゆるコアなファンが付いていた。このファン層が情報カスケードの核になり多くの浮動票を動かしたと考えられる。